

(大学院保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程)

資料3-①

課程・領域の区分	養成する人材像 (HR) No.	養成する人材像の概要	養成する人材像(HR)とディプロマ・ポリシー(DP)との関連表																
			課程のDP					看護学領域のDP					リハビリテーション学領域のDP						
			D-DP①	D-DP②	D-DP③	D-DP④	D-DP⑤	DP-N①	DP-N②	DP-N③	DP-N④	DP-N⑤	DP-R①	DP-R②	DP-R③	DP-R④	DP-R⑤		
			ディプロマ・ポリシーの概要																
			自らの研究分野以外の学問領域の幅広い知識を修得した知のプロフェッショナル	研究能力、コミュニケーション能力	多職種協働における管理・指導能力	教育実践能力	高い倫理観	自らの研究分野以外の学問領域の幅広い知識を修得した知のプロフェッショナル	研究能力、コミュニケーション能力	多職種協働における管理・指導能力	教育実践能力	高い倫理観	自らの研究分野以外の学問領域の幅広い知識を修得した知のプロフェッショナル	研究能力、コミュニケーション能力	多職種協働における管理・指導能力	教育実践能力	高い倫理観		
博士後期課程	D-HR① (研究者)	臨床的学問探求を培い、保健医療学を基盤とする看護学、またはリハビリテーション学のいずれかの領域のさらなる創造性に満ちた研究・開発能力を有し、多彩な研究を遂行できる研究者の養成	◎	◎	○	○	◎												
	D-HR② (高度専門職業人)	保健医療学を基盤とする看護学、またはリハビリテーション学のいずれかの領域を対象とした学問的基盤を熟知し、看護学、またはリハビリテーション学の実践において臨床現場で管理・指導能力を有する高度専門職業人の養成	◎	○	◎	○	◎												
	D-HR③ (大学教員)	保健医療学を基盤とする看護学、またはリハビリテーション学のいずれかの領域の学問的基盤を熟知し、看護学、またはリハビリテーション学の実践において確かな研究能力と教育能力を兼ね備えた大学教員を養成	◎	○	○	◎	◎												
看護学領域	HR-N① (研究者)	臨床的学問探求を培い、看護学のさらなる創造性に満ちた研究・開発能力を有し、多彩な研究を遂行し、発信できる研究者						◎	◎	○	○	◎							
	HR-N② (高度専門職業人)	看護学領域を対象とした学問的基盤を熟知し、看護学の実践において臨床現場で管理・指導能力を有する高度専門職業人						◎	○	◎	○	◎							
	HR-N③ (大学教員)	看護学を対象とした学問的基盤を熟知し、看護学の教育や実践において確かな研究能力と教育能力を兼ね備えた大学教員						◎	○	○	◎	◎							
リハビリテーション学領域	HR-R① (研究者)	臨床的学問探求を培い、リハビリテーション学のさらなる創造性に満ちた研究・開発能力を有し、多彩な研究を遂行し、発信できる研究者											◎	◎	○	○	◎		
	HR-R② (高度専門職業人)	リハビリテーション学領域を対象とした学問的基盤を熟知し、リハビリテーション学の実践において臨床現場で管理・指導能力を有する高度専門職業人											◎	○	◎	○	◎		
	HR-R③ (大学教員)	リハビリテーション学を対象とした学問的基盤を熟知し、リハビリテーション学の教育や実践において確かな研究能力と教育能力を兼ね備えた大学教員											◎	○	○	◎	◎		

課程・領域の区分	カリキュラム・ポリシー (CP) No. (科目区分)	カリキュラム・ポリシーの概要	養成する人材像(HR)とカリキュラム・ポリシー(CP)との関連表									
			課程の養成する人材像			看護学領域の養成する人材像			リハビリテーション学領域の養成する人材像			
			D-HR①	D-HR②	D-HR③	HR-N①	HR-N②	HR-N③	HR-R①	HR-R②	HR-R③	
			ディプロマ・ポリシーの概要									
			臨床的学問探求を培い、保健医療学を基盤とする看護学、またはリハビリテーション学のいずれかの領域のさらなる創造性に富んだ研究・開発能力を有し、多彩な研究を遂行できる研究者の養成	保健医療学を基盤とする看護学、またはリハビリテーション学のいずれかの領域の学問的基盤を熟知し、看護学、またはリハビリテーション学の実践において臨床現場で管理・指導能力を有する高度専門職業人の養成	保健医療学を基盤とする看護学、またはリハビリテーション学のいずれかの領域の学問的基盤を熟知し、看護学、またはリハビリテーション学の実践において豊かな研究能力と教育能力を兼ね備えた大学教員を養成	臨床的学問探求を培い、看護学のさらなる創造性に富んだ研究・開発能力を有し、多彩な研究を遂行し、発信できる研究者	看護学領域を対象とした学問的基盤を熟知し、看護学の教育や実践において豊かな研究能力と教育能力を有する高度専門職業人を養成する人材像	看護学を対象とした学問的基盤を熟知し、リハビリテーション学のさらなる創造性に富んだ研究・開発能力を有し、多彩な研究を遂行し、発信できる研究者	リハビリテーション学領域を対象とした学問的基盤を熟知し、リハビリテーション学の実践において豊かな研究能力と教育能力を兼ね備えた大学教員	リハビリテーション学を対象とした学問的基盤を熟知し、リハビリテーション学の教育や実践において豊かな研究能力と教育能力を兼ね備えた大学教員		
博士後期課程	D-CP① (共通科目)	保健医療学の総合的なコンセプトを修得、精通した上に、保健医療学関連学問分野の幅広い知識を修得した知のプロフェッショナルの素養と倫理的見識を備え、適切な方法論を用いて自立的に研究活動が行える能力と主体的な教育活動と専門職連携教育を実践させるため、その根源となる豊かな知的学識を培えるための科目を配置する。	○	○	◎							
	D-CP② (基礎科目)	保健医療学分野のそれぞれに関わる諸問題・課題を幅広い知識、専門的及び科学的観点からの確に解明し実践するために、多職種や地域社会と連携して高度な企画運営等の運営管理能力、創造性豊かな研究・開発能力を遂行する能力、ならびに高等教育の目的、重要性、意義、方法など、理論的基礎の検証を学ぶことができる科目を配置する。	◎	○	○							
	D-CP③ (専門科目)	保健医療学分野の看護学、またはリハビリテーション学それぞれに関わる専門、かつ多様な実践と研究、教育の応用・発展を修得するために、自らの研究分野以外の学問の幅広い知識、研究方法、倫理的見識、及び教育技法・評価方法を学ぶ科目を配置する。	○	◎	○							
	D-CP④ (特別研究科目)	「共通科目」、「基礎科目」及び「専門科目」で修得した知識をもとに、高い倫理観を有し人間や社会の多様性を理解した知のプロフェッショナルとして、適切な研究方法を用いて自ら研究課題を設定した研究活動を行い、その成果発表に取り組み教育を実践することができる科目を配置する。	◎	○	○							
看護学領域	CP-N① (共通科目)	看護学の総合的なコンセプトを修得、精通した上に、看護学関連学問分野の幅広い知識を修得した知のプロフェッショナルの素養と倫理的見識を備え、適切な方法論を用いて自立的に研究活動が行える能力と主体的な教育活動と専門職連携教育を実践させるため、その根源となる豊かな知的学識を培えるための科目を配置する。				○	○	○				
	CP-N② (基礎科目)	看護学のそれぞれに関わる諸問題・課題を幅広い知識、専門的及び科学的観点からの確に解明し実践するために、多職種や地域社会と連携して高度な企画運営等の運営管理能力、創造性豊かな研究・開発能力を遂行する能力、ならびに高等教育の目的、重要性、意義、方法など、理論的基礎の検証を学ぶことができる科目を配置する。				○	○	◎				
	CP-N③ (専門科目)	看護学に関わる専門、かつ多様な実践と研究、教育の応用・発展を修得するために、自らの研究分野以外の学問の幅広い知識、研究方法、倫理的見識、及び教育技法・評価方法を学ぶ科目を配置する。				○	◎	○				
	CP-N④ (特別研究科目)	研究能力育成と研究遂行のため、特別研究科目として看護学特別研究を配置する。看護学特別研究は、看護学領域における研究をさらに深化させる探究心を備えるために研究活動に重点を置いた教育を行う。さらに、看護学領域において自立的な研究活動を通して、教育者、研究者、高度専門職業人として、社会を牽引できる能力を修得できる科目とする。具体的活動としては、研究デザインから論文執筆までを個別指導と複数教員による集団指導を組み合わせ、複数回の中間報告会等により、進捗状況の確認と研究内容の向上を図り、独創性や自立して研究を行う能力とプレゼンテーション能力を修得する。学術交流、研究活動に貢献でき、研究成果をグローバルに発信できる能力を育成するために、看護学特別研究において、学会やジャーナルに成果を発表することも目指す。				◎	○	○				
リハビリテーション学領域	CP-R① (共通科目)	リハビリテーション学の総合的なコンセプトを修得、精通した上に、リハビリテーション学関連学問分野の幅広い知識を修得した知のプロフェッショナルの素養と倫理的見識を備え、適切な方法論を用いて自立的に研究活動が行える能力と主体的な教育活動と専門職連携教育を実践させるため、その根源となる豊かな知的学識を培えるための科目を配置する。							○	○	○	
	CP-R② (基礎科目)	リハビリテーション学のそれぞれに関わる諸問題・課題を幅広い知識、専門的及び科学的観点からの確に解明し実践するために、多職種や地域社会と連携して高度な企画運営等の運営管理能力、創造性豊かな研究・開発能力を遂行する能力、ならびに高等教育の目的、重要性、意義、方法など、理論的基礎の検証を学ぶことができる科目を配置する。							○	○	◎	
	CP-R③ (専門科目)	リハビリテーション学に関わる専門、かつ多様な実践と研究、教育の応用・発展を修得するために、自らの研究分野以外の学問の幅広い知識、研究方法、倫理的見識、及び教育技法・評価方法を学ぶ科目を配置する。							○	◎	○	
	CP-R④ (特別研究科目)	修士課程での教育を基礎として、より研究活動に重点を置いた教育を行うとともに、リハビリテーション学研究をさらに深化させる探究心を備えた上で、リハビリテーション学領域において自立的な研究活動を行い、教育者、研究者、高度専門職業人として社会を牽引できる能力が修得できる科目とする。そのため、研究デザインから論文執筆までを個別指導と複数教員による集団指導を組み合わせ、複数回の中間報告会等により、進捗状況の確認と研究内容の向上を図り、独創性や自立して研究を行う能力とプレゼンテーション能力を修得させる。							◎	○	○	

(大学院保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程)

資料3-③

課程・領域の区分	アドミッション・ポリシー	アドミッション・ポリシーの概要	養成する人材像(HR)とアドミッション・ポリシー(AP)との関連表								
			課程の養成する人材像			看護学領域の養成する人材像			リハビリテーション学領域の養成する人材像		
			D-HR①	D-HR②	D-HR③	HR-N①	HR-N②	HR-N③	HR-R①	HR-R②	HR-R③
			臨床的学問探求を培い、保健医療学を基盤とする看護学、またはリハビリテーション学のいずれかの領域の学問的基盤を熟知し、看護学、またはリハビリテーション学の実践において臨床現場で管理・指導能力を有する高度専門職業人の養成	保健医療学を基盤とする看護学、またはリハビリテーション学のいずれかの領域の学問的基盤を熟知し、看護学、またはリハビリテーション学の実践において臨床現場で管理・指導能力を有する高度専門職業人の養成	保健医療学を基盤とする看護学、またはリハビリテーション学のいずれかの領域の学問的基盤を熟知し、看護学、またはリハビリテーション学の実践において臨床現場で管理・指導能力を有する高度専門職業人の養成	臨床的学問探求を培い、看護学のさらなる創造性に富んだ研究・開発能力を有し、多彩な研究を遂行し、発信できる研究者	看護学領域を対象とした学問的基盤を熟知し、看護学の教育や実践において確かな研究能力と教育能力を兼ね備えた大学教員看護学領域の養成する人材像	看護学を対象とした学問的基盤を熟知し、看護学の教育や実践において確かな研究能力と教育能力を兼ね備えた大学教員看護学領域の養成する人材像	臨床的学問探求を培い、リハビリテーション学のさらなる創造性に富んだ研究・開発能力を有し、多彩な研究を遂行し、発信できる研究者	リハビリテーション学領域を対象とした学問的基盤を熟知し、リハビリテーション学の教育や実践において臨床現場で管理・指導能力を有する高度専門職業人	リハビリテーション学を対象とした学問的基盤を熟知し、リハビリテーション学の教育や実践において臨床現場で管理・指導能力を有する高度専門職業人
博士後期課程	D-AP①	人間に対する深い関心と高い倫理観を備え、生命の尊厳を重視し、個を敬愛できる人	○	○	○						
	D-AP②	保健医療学の研究に求められる基礎的な能力と専門知識を有し、博士後期課程での研究を達成出来る人	○	○	○						
	D-AP③	研究者・教育者・高度専門職業人として求められる専門知識と技術の修得に強い意欲を持つ人	○	○	○						
	D-AP④	保健医療に関わる社会的課題に常に関心を持ち、研究者・教育者・高度専門職業人として社会に貢献する熱意のある人	○	○	○						
	D-AP⑤	柔軟な発想と論理的思考を持ち、多様な分野の専門家と連携・協働できる協調性やコミュニケーション能力を備えた人	○	○	○						

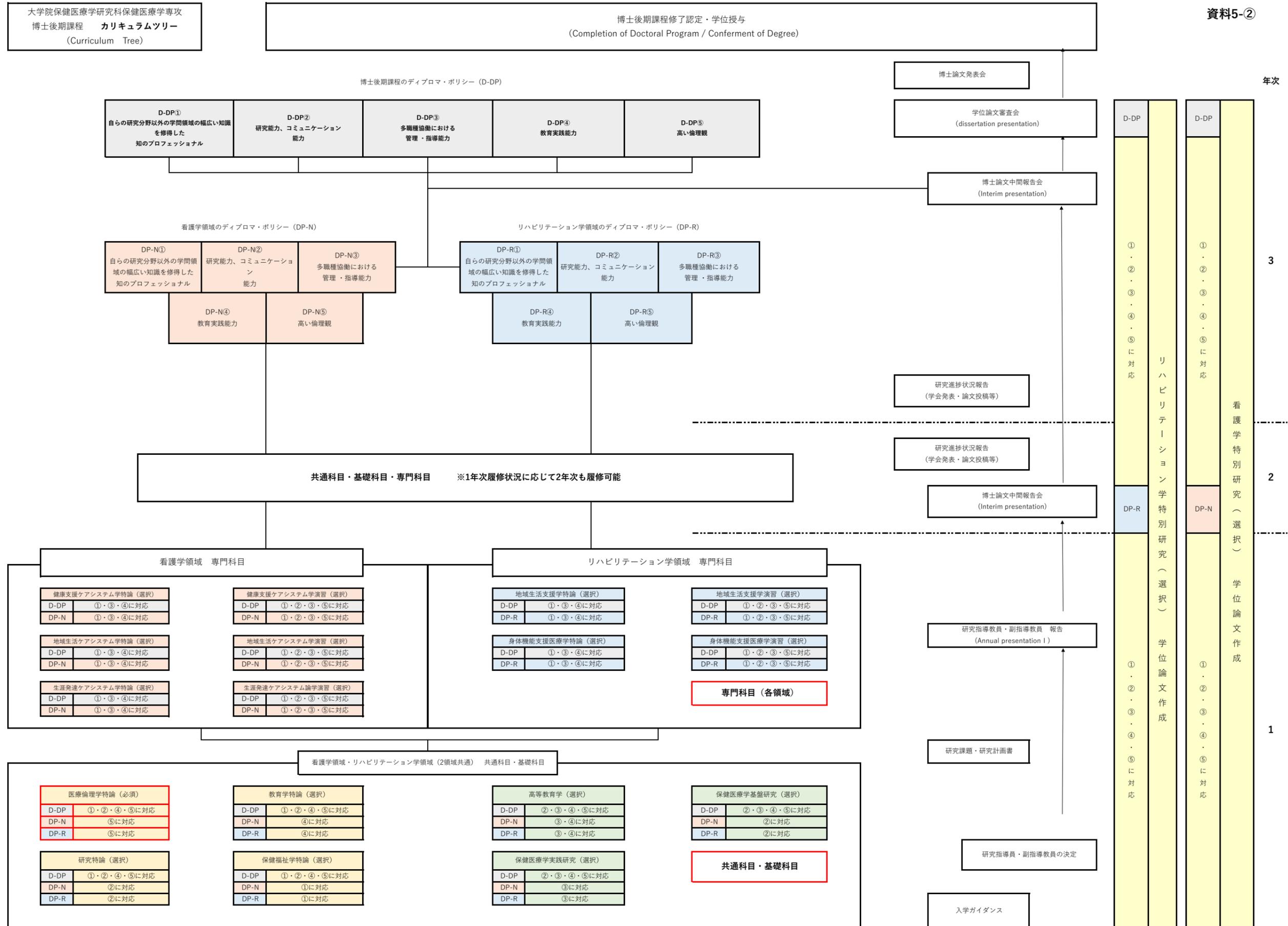
看護学領域	AP-N①	(自らの研究分野以外の学問領域の幅広い知識を修得した知のプロフェッショナル) 看護学に精通した上に、他分野の専門知識を幅広く学際的に修得し、人間や社会の多様性を理解した知のプロフェッショナルとして、看護学に於ける研究者、高度専門職業人、教育者としての資質を有する人。				○	○	○			
	AP-N②	(研究能力、コミュニケーション能力) 看護学における諸課題を自ら発見・設定し、論理的に考察する力、独創的な研究を自立して実施し遂行する力、研究結果を論理的に評価・分析する力など、看護実践の基盤となる科学的エビデンスの構築に必要な高度な研究を達成する強い意志、研究成果を広く社会に知らせる情報発信能力、コミュニケーション能力を有する人。				○	○	○			
	AP-N③	(多職種協働における管理・指導能力) 看護学の実践に関わる医療・行政・地域医療の現場において、多職種間の有機的連携を推進するために中心的な役割を担える調整力および管理能力・指導能力を発揮できる資質を有する人。					○				
	AP-N④	(教育実践能力) 看護学における研究に求められる基礎的な能力を有し、看護系大学の学生教育において、学生の主体的な学びを促す教育実践能力に発展できる資質を有している人。				○		○			
	AP-N⑤	(高い倫理観) 看護学生の教育場面や研究活動、看護職が医療や介護や福祉等の現場で求められる豊かな人間性や責任感、使命感とともに、保健医療に関わる研究者や教育者、高度専門職業人に必要な高い倫理観を有している人。				○	○	○			
リハビリテーション学領域	AP-R①	(自らの研究分野以外の学問領域の幅広い知識を修得した知のプロフェッショナル) リハビリテーション学に精通した上に、他分野の専門知識を幅広く学際的に修得し、人間や社会の多様性を理解した知のプロフェッショナルとして、リハビリテーション学に於ける研究者、高度専門職業人、教育者としての資質を有する人。							○	○	○
	AP-R②	(研究能力、コミュニケーション能力) リハビリテーション学における諸課題を自ら発見・設定し、論理的に考察する力、独創的な研究を自立して実施し遂行する力、研究結果を論理的に評価・分析する力など、リハビリテーション実践の基盤となる科学的エビデンスの構築に必要な高度な研究を達成する強い意志、研究成果を広く社会に知らせる情報発信能力、コミュニケーション能力を有する人。							○	○	○
	AP-R③	(多職種協働における管理・指導能力) リハビリテーション学の実践に関わる医療・行政・地域医療の現場において、多職種間の有機的連携を推進するために中心的な役割を担える調整力および管理能力・指導能力を発揮できる資質を有する人。								○	
	AP-R④	(教育実践能力) リハビリテーション学における研究に求められる基礎的な能力を有し、リハビリテーション系大学の学生教育において、学生の主体的な学びを促す教育実践能力に発展できる資質を有している人。							○		○
	AP-R⑤	(高い倫理観) リハビリテーション系学生の教育場面や研究活動、リハビリテーション関連職が医療や介護や福祉等の現場で求められる豊かな人間性や責任感、使命感とともに、保健医療に関わる研究者や教育者、高度専門職業人に必要な高い倫理観を有している人。							○	○	○

(大学院保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程)

別添資料 4

課程・領域 の区分	カリキュラム・ポリシー (CP) No. (科目 区分)	カリキュラム・ポリシーの概要	ディプロマ・ポリシー (DP)とカリキュラム・ポリシー (CP)との関連表														
			課程のDP					看護学領域のDP					リハビリテーション学領域のDP				
			D-DP①	D-DP②	D-DP③	D-DP④	D-DP⑤	DP-N①	DP-N②	DP-N③	DP-N④	DP-N⑤	DP-R①	DP-R②	DP-R③	DP-R④	DP-R⑤
ディプロマ・ポリシーの概要																	
博士後期課程	D-CP① (共通科目)	保健医療学の総合的なコンセプトを修得、精通した上に、保健医療学関連学問分野の幅広い知識を修得した知のプロフェッショナルの素養と倫理的見識を備え、適切な方法論を用いて自立的に研究活動が行える能力と主体的な教育活動と専門職連携教育を実践させるため、その根源となる豊かな知的学識を培えるための科目を配置する。	◎	◎		◎	◎										
	D-CP② (基礎科目)	保健医療学分野のそれぞれに関わる諸問題・課題を幅広い知識、専門的及び科学的観点からの確に解明し実践するために、多職種や地域社会と連携して高度な企画運営等の運営管理能力、創造性豊かな研究・開発能力を遂行する能力、ならびに高等教育の目的、重要性、意義、方法など、理論的基礎の検証を学ぶことができる科目を配置する。		◎	◎	◎	◎										
	D-CP③ (専門科目)	保健医療学分野の看護学、またはリハビリテーション学それぞれに関わる専門、かつ多様な実践と研究、教育の応用・発展を修得するために、自らの研究分野以外の学問の幅広い知識、研究方法、倫理的見識、及び教育技法・評価方法を学ぶ科目を配置する。	○		○	○	○										
	D-CP④ (特別研究科目)	「共通科目」、「基礎科目」及び「専門科目」で修得した知識をもとに、高い倫理観を有し人間や社会の多様性を理解した知のプロフェッショナルとして、適切な研究方法を用いて自ら研究課題を設定した研究活動を行い、その成果発表に取り組み教育を実践することができる科目を配置する。	◎	◎	○	○	◎										

看護学領域	CP-N① (共通科目)	看護学の総合的なコンセプトを修得、精通した上に、看護学関連学問分野の幅広い知識を修得した知のプロフェッショナルの素養と倫理的見識を備え、適切な方法論を用いて自立的に研究活動が行える能力と主体的な教育活動と専門職連携教育を実践させるため、その根源となる豊かな知的学識を培えるための科目を配置する。								◎	◎					
	CP-N② (基礎科目)	看護学のそれぞれに関わる諸問題・課題を幅広い知識、専門的及び科学的観点からの確に解明し実践するために、多職種や地域社会と連携して高度な企画運営等の運営管理能力、創造性豊かな研究・開発能力を遂行する能力、ならびに高等教育の目的、重要性、意義、方法など、理論的基礎の検証を学ぶことができる科目を配置する。								◎	◎	◎				
	CP-N③ (専門科目)	看護学に関わる専門、かつ多様な実践と研究、教育の応用・発展を修得するために、自らの研究分野以外の学問の幅広い知識、研究方法、倫理的見識、及び教育技法・評価方法を学ぶ科目を配置する。								○	○	○	○			
	CP-N④ (特別研究科目)	研究能力育成と研究遂行のため、特別研究科目として看護学特別研究を配置する。看護学特別研究は、看護学領域における研究をさらに深化させる探究心を備えるために研究活動に重点を置いた教育を行う。さらに、看護学領域において自立した研究活動を通して、教育者、研究者、高度専門職業人として、社会を牽引できる能力を修得できる科目とする。具体的活動としては、研究デザインから論文執筆までを個別指導と複数教員による集団指導を組み合わせ、複数回の中間報告会等により、進捗状況の確認と研究内容の向上を図り、独創性や自立して研究を行える能力とプレゼンテーション能力を修得する。学術交流、研究活動に貢献でき、研究成果をグローバルに発信できる能力を育成するために、看護学特別研究において、学会やジャーナルに成果を発表することも目指す。								◎	◎	○	○	◎		
リハビリテーション学領域	CP-R① (共通科目)	リハビリテーション学の総合的なコンセプトを修得、精通した上に、リハビリテーション学関連学問分野の幅広い知識を修得した知のプロフェッショナルの素養と倫理的見識を備え、適切な方法論を用いて自立的に研究活動が行える能力と主体的な教育活動と専門職連携教育を実践させるため、その根源となる豊かな知的学識を培えるための科目を配置する。											◎	◎		◎
	CP-R② (基礎科目)	リハビリテーション学のそれぞれに関わる諸問題・課題を幅広い知識、専門的及び科学的観点からの確に解明し実践するために、多職種や地域社会と連携して高度な企画運営等の運営管理能力、創造性豊かな研究・開発能力を遂行する能力、ならびに高等教育の目的、重要性、意義、方法など、理論的基礎の検証を学ぶことができる科目を配置する。												◎	◎	◎
	CP-R③ (専門科目)	リハビリテーション学に関わる専門、かつ多様な実践と研究、教育の応用・発展を修得するために、自らの研究分野以外の学問の幅広い知識、研究方法、倫理的見識、及び教育技法・評価方法を学ぶ科目を配置する。												○	○	○
	CP-R④ (特別研究科目)	修士課程での教育を基礎として、より研究活動に重点を置いた教育を行うとともに、リハビリテーション学研究をさらに深化させる探究心を備えた上で、リハビリテーション学領域において自立した研究活動を行い、教育者、研究者、高度専門職業人として社会を牽引できる能力が修得できる科目とする。そのため、研究デザインから論文執筆までを個別指導と複数教員による集団指導を組み合わせ、複数回の中間報告会等により、進捗状況の確認と研究内容の向上を図り、独創性や自立して研究を行える能力とプレゼンテーション能力を修得させる。												◎	◎	○



修士課程と博士後期課程の学業領域における看護学とリハビリテーション学との関連性

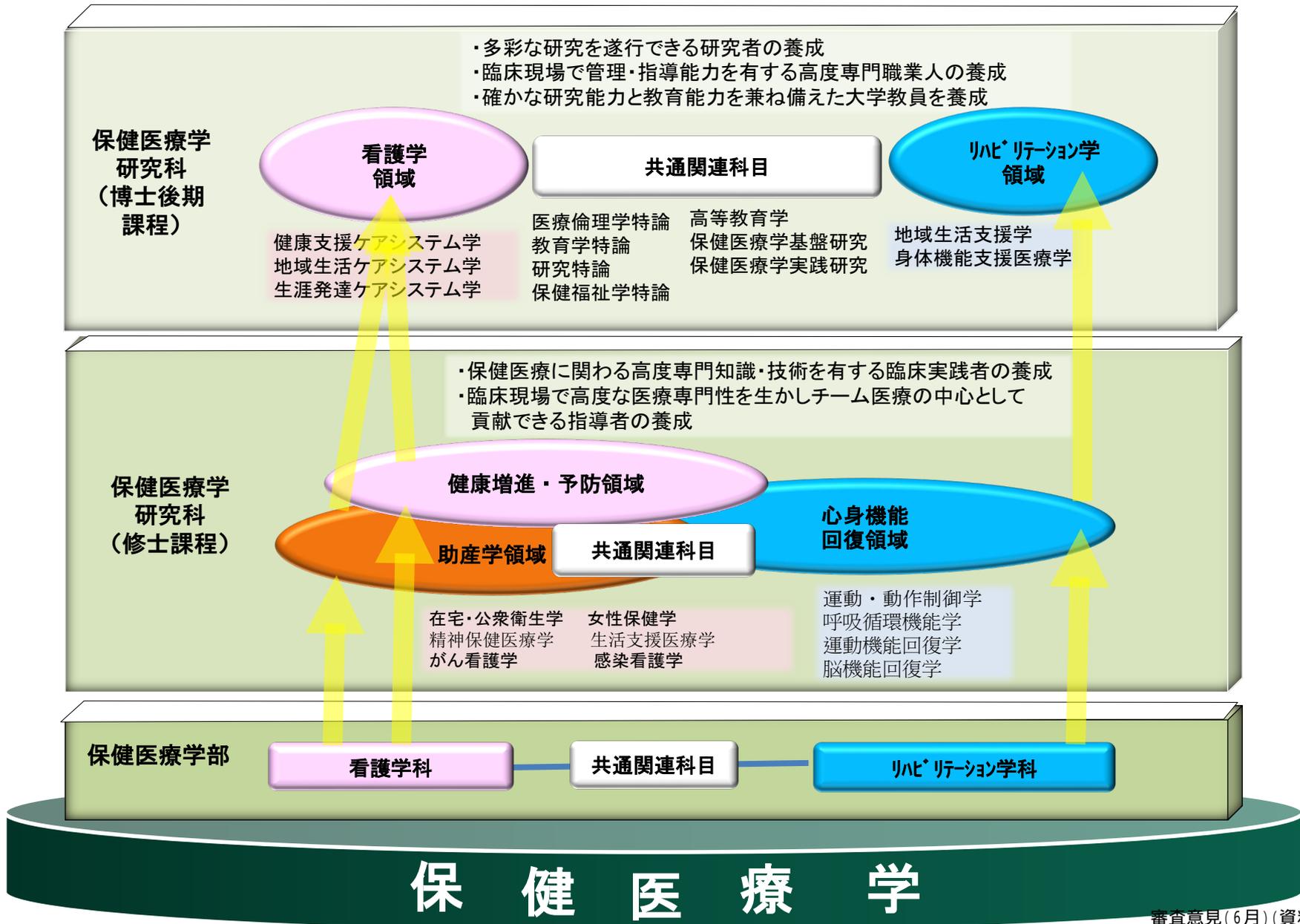
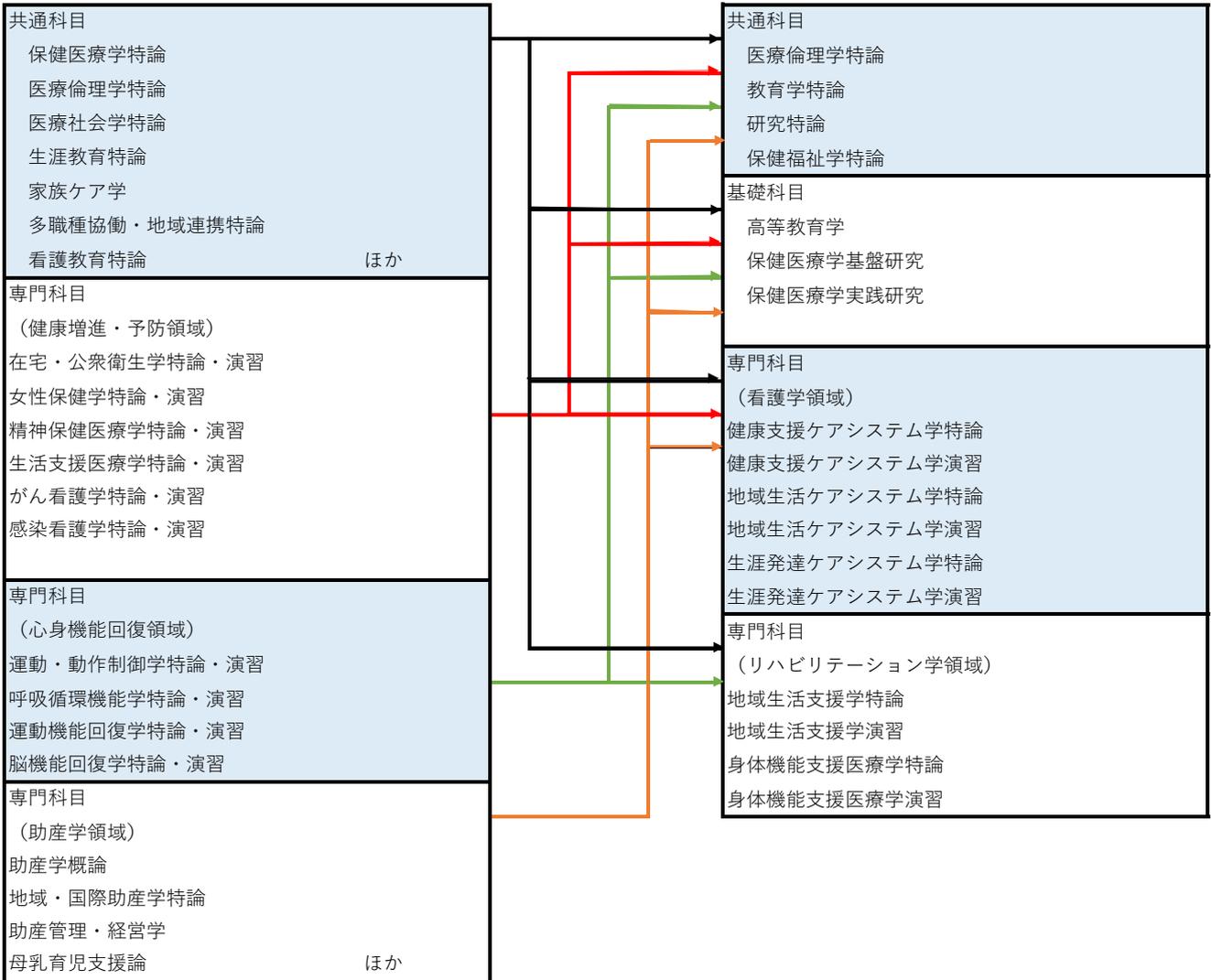
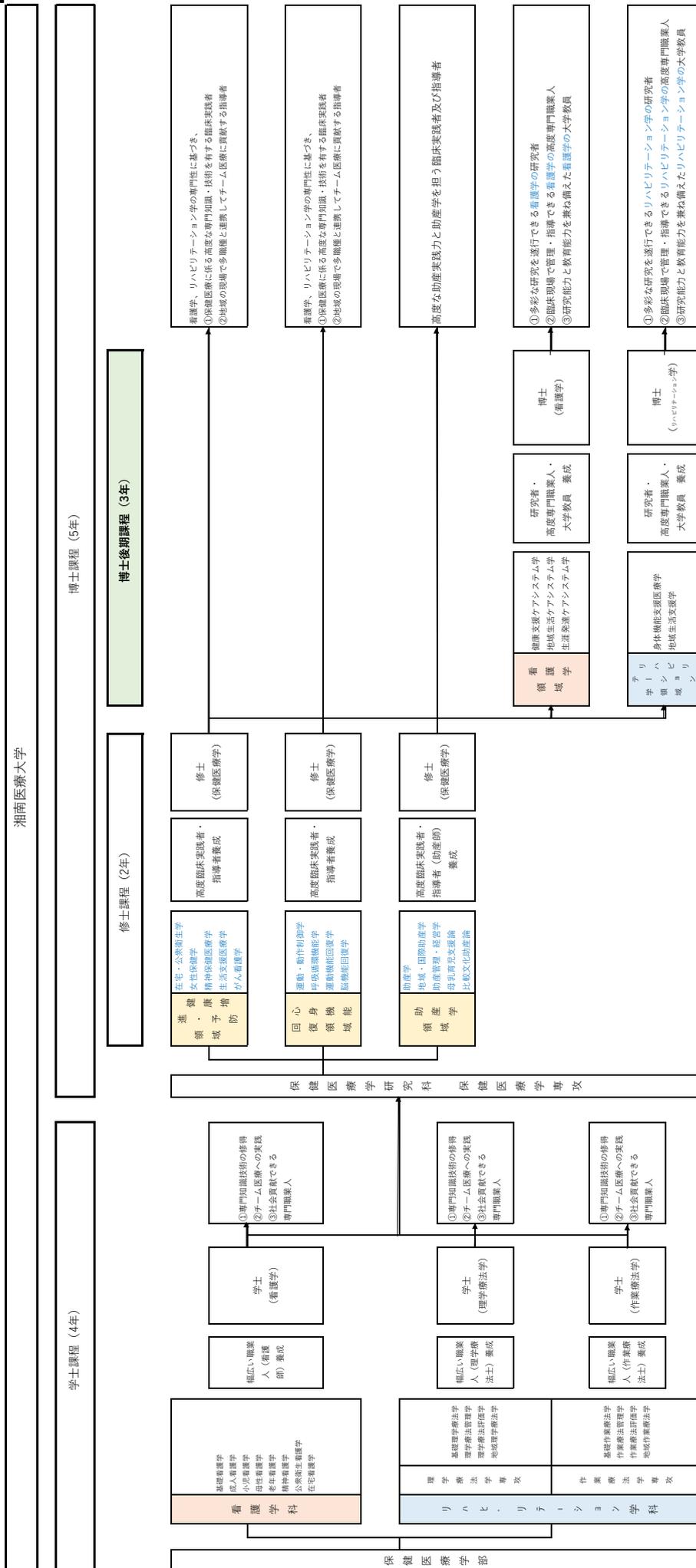


図3-② 修士課程 - 博士後期課程授業科目の関係図

保健医療学研究科保健医療学専攻（修士課程）

保健医療学研究科保健医療学専攻（博士後期課程）





【新】

湘南医療大学大学院保健医療学研究科履修規程

(成績評価の基準・成績評価)

第10条 成績はシラバスに定めた基準により判定する。

2 成績評価については、大学院学則第25条第1項に基づき、下表のとおりとする。評点に対して、グレード・ポイント（以下「GP」という。）を設定し、不合格その他GPを「0」と算定する授業科目も含めて、履修登録した授業科目のグレード・ポイントの平均（グレード・ポイント・アベレージ、以下「GPA」という。）を算出し、総合成績評価を行う。

評価	評点	グレード外 GP	単位の授与	評価基準
秀 (S)	90点～100点	4	授与	基本的な目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。
優 (A)	80点～89点	3		基本的な目標を十分に達成している。
良 (B)	70点～79点	2		基本的な目標を達成している。
可 (C)	60点～69点	1		基本的な目標を最低限度達成している。
不可 (D)	59点以下	0	不授与	基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。
放棄(01)	受験資格喪失	0	評価 対象外	
放棄(02)	定期試験受験の放棄	0		
/	評価対象外	算定しない		